

## 21203251 フランス近代文学研究(1) 塚本昌則 S1/S2 火曜 4 限

## ヴァレリー『魅惑』を読む

ヴァレリーは「テスト氏」、「レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説」、「精神の危機」等の散文を中心に受容されてきたが、韻文詩の優れた作品も数多く発表している。韻文詩は、フランスでは 19 世紀末に解体され、散文詩や自由詩に取って代わられるようになる。しかし、長さ、形式が詩篇によって大きく異なる独特の韻文詩集『魅惑』には、さまざまな読解を誘う力が秘められている。この作品を読むことで、詩人としてのヴァレリーの可能性について考えてみたい。

## 授業計画

初回到ヴァレリーの詩について、また韻文詩の読み方について紹介する。二回目以降は、『魅惑』を可能なかぎり読みすすめる。1. イントロダクション—ヴァレリーはどういう作家なのか 2. Aurore 3. Au Platane 4. Cantique des Colonnes 5. L'Abeille; Poésie 6. Les Pas 7. La Ceinture; La Dormeuse 8. Le Cimetière marin I 9. Le Cimetière marin II 10. La Pythie I 11. La Pythie II 12. La Pythie III 13. Les Grenades; Le Vin perdu 14. Le Sylphe; Le Rameur 15. Palme

## 授業の方法

テキスト講読を基本とする。

## 成績評価方法

授業への参加度 50%、期末レポート 50%

## 教科書

Paul Valéry, Charmes, Œuvres, t.I, Édition, présentation et notes de Michel Jarrety, Le Livre de Poche, 2016, p.609-684(プリントで配布する)

## 参考書

Florence de Lussy, Charmes d'après les manuscrits de Paul Valéry : histoire d'une métamorphose, Monard, 1990-1996

## 履修上の注意

韻文詩についても、ヴァレリーについても、予備知識は不要。

## 21203252 フランス近代文学研究(2) 塚本昌則 A1/A2 火曜 4 限

## ブルースト『ゲルマントのほう』を読む

『失われた時を求めて』は、どこから読みはじめても小説の流れに引きこむ力をもった作品だが、重要な主題が凝縮された形で扱われることで、とりわけその力が際立っている箇所がある。『ゲルマントのほう』には、主人公がゲルマント公爵夫人と出会う場面、眠りについて考える場面、祖母からの電話を受け取る場面、アルベルチーナがさまざまな女性に変貌する場面、自分の恋人となっていたかもしれないステルマリア夫人とのやり取り等々、きわめて印象的な箇所が数多くある。一方ではバルザック

の小説のような筋立てをもちながら、もう一方では物語とはほとんど関係なく、どのページにもみなぎっている幸福への爆発的な希求によって最後まで読ませてしまうこの小説の魅力の一端に触れることを目指す。

### 授業計画

プルーストの小説を可能なかぎり読みすすめる。第1回 イントロダクション—『失われた時を求めて』について 第2回～第5回 ゲルマント夫人との出会い 第6回～第8回 ドンシエールでの眠りに関する考察 第9回 祖母との電話での通話 第10回～第13回 アルベルチーナの変貌 第14回～第15回 ステルマリア夫人への想い

### 授業の方法

テキスト講読を基本とする。

### 成績評価方法

授業への参加度 50%、期末レポート 50%

### 教科書

Proust, *Le côté de Guermantes, A la recherche du temps perdu, t.II*, Gallimard, coll. « Bibliothèque de la Pléiade », 1988(テキストはプリントで配布する)

### 参考書

Dictionnaire Marcel Proust, sous la direction de Annick Bouillaguet et Brian G. Rogers, Honoré Champion, 2004

### 履修上の注意

プルーストに関する予備知識は不要。この小説を初めて読む参加者でもすぐ作品世界に入れるよう、関連テキストのプリントを随時配布する。

21203253 フランス近現代文学研究(1) 塩塚秀一郎 S1/S2 月曜 4 限

### バルザック『サラジーヌ』を読む

十九世紀の作家バルザックの小説 *Sarrasine* を精読し、物語の中の物語、謎の解明を先延ばしにする両義的な語り的手法、両性具有、といった、この小説が提起する問題について考察を深める。文章の意味をとるだけで満足せず、テキスト全体において、ある一文、語句、断片が担っているさまざまな機能を解明する(語り)。物語の中の物語という構造において、外枠をなす物語と、入れ子式にはめ込まれた物語の関係を明らかにする(構造)。去勢、両性具有というテーマについて考察を深める(テーマ)。

### 授業計画

1. イントロダクション 2. p.9-14 3. p.15-20 4. p.21-26 5. p.27-32 6. p.33-38 7. p.39-44 8. p.45-49 9. p.50-55 10. p.56-61 11. p.62-66 12. まとめ 13. 予備日

**授業の方法**

意味の切れ目ごとに、少しずつ分担して訳してもらう。単なる訳だけではなく、小説全体を視野に入れたコメントを付けることを強く要望する。また、Pleiade 版などの注釈を読み、概略を紹介することも、分担者の役割とする。また、おりにふれて、バルト、セールなどによる評論も参照したい。

**成績評価方法**

授業への参加度(出席状況、発表の出来)と期末のレポートを勘案して評価する。演習への参加者が少ない場合、授業への貢献のみで評価する場合もある。

**教科書**

Balzac, Sarrasine suivi de Michel Serres l'Hermaphrodite, GF-Flammarion, 1989

**参考書**

Roland Barthes, S/Z, Seuil (Points), 1970 Roland Barthes, Sarrasine de Balzac : Séminaires à l'École pratique des hautes études (1967-1968 et 1968-1969), Seuil, 2011

**履修上の注意**

フランス語テキストの読解にある程度慣れていること。

21203254 フランス近現代文学研究(2) 塩塚秀一郎 A1/A2 月曜 4 限

**ジュリアン・グラック『ひとつの町のかたち』を読む**

『ひとつの町のかたち』では、一九二〇年代に、後の作家グラックが寄宿生活を送った町ナントと当時の彼の肖像が描かれている。だが今日、この書物はナントやグラックの固有性から離れ、都市論や遊歩論の古典としてさかんに参照されている。今回の演習では、場所と時代の相互作用、書かれたテキストと作家偏愛のテキストの相互作用に注目しつつ、町の変容がいかにして将来の作家を形成したのか考えてみたい。

**授業計画**

1. イントロダクション 2. 第一章:十一歳 3. 第二章:「本当の町」へ 4. 第三章:日々の空間 5. 第四章:郊外の散策 6. 第五章:繁華街 7. 第六章:名所ざらい 8. 第七章:川辺と港 9. 第八章:社会と階級 10. 第九章:地理と歴史 11. 第十章:町と心 12. まとめ 13. 予備日

**授業の方法**

意味の切れ目ごとに、少しずつ分担して訳してもらう。単なる訳だけではなく、作品全体を視野に入れたコメントを付けることを強く要望する。また、Pleiade 版などの注釈を読み、概略を紹介することも、分担者の役割とする。

**成績評価方法**

授業への参加度(出席状況、発表の出来)と期末のレポートを勘案して評価する。演習への参加者が少ない場合、授業への貢献のみで評価する場合もある。

**教科書**

Julien Gracq, La forme d'une ville, José Corti, 1985

**参考書**

B. Damamme-Glibert, La Forme d'une ville de Julien Gracq : lecture d'un lieu dialogique, Minard, 1998

**履修上の注意**

フランス語テキストの読解にある程度慣れていること。

## 21203201 フランス近世思想研究(1) 王寺賢太 S1/S2 金曜 4 限

**レナル／デイドロ『アメリカの革命』を読む: 18 世紀末の大西洋世界とアメリカ合衆国の出現**

18 世紀フランスを代表する哲学者ドニ・デイドロ(1713-1784)は、1760 年代後半から最晩年にかけて、同時代の政治について多くの考察を残した。そのうち特に注目に値するのは、デイドロがギヨーム＝トマ・レナル(1713-1797)の『両インド史』(1770, 1774, 1780 の三版)に匿名で寄稿した数々の断章である。『両インド史』は、正式のタイトルを『両インドにおけるヨーロッパ人の植民と商業についての哲学的・政治的歴史』と言い、大航海時代以来、アメリカ合衆国独立(1776 年独立宣言)までの「ヨーロッパの拡大」を描く歴史書であった。出版当時、各国語に翻訳され、大西洋兩岸で広く流布したこの歴史書のなかで、デイドロは植民地化の暴力、アフリカ人奴隷制、商業の繁栄のもとでのヨーロッパ内部の専制政治などを厳しく批判するとともに、アメリカ合衆国独立への熱烈な支持を表明していた。

本講義では、1780 年刊の『両インド史』全 19 編のうち、第 18 篇末尾所収のアメリカ合衆国独立にかかわる叙述を精読し、解説する。該当箇所は、抜粋されて『アメリカの革命』という独立の書物としても刊行され、フランス語と英語で流通した部分に相当する。この叙述の読解を通じて、18 世紀のテキストの読解力を身につけることが、本講義の第一の目的である。また、18 世紀末のヨーロッパと世界の関係についての歴史的・政治的背景について知見を深めること、またレナルやデイドロがどのような歴史的認識と哲学的・政治的立場に基づいて「アメリカの革命」を擁護していたかを知ることが第二の目標である。その際には、18 世紀西欧の政治思想の諸潮流(共和主義、自然権論)に目配せし、『両インド史』の叙述の源泉資料となっている当時の英仏のさまざまな思想的・政治的著作についても言及する。さらに、レナル／デイドロの叙述上の戦略——語彙の選択、概念的対立軸の設定、政治的雄弁の利用——に留意し、哲学的・政治的テキストを「書く」という実践が大革命直前のフランスでどのように行われていたかを検討することが第三の目標である。

**授業計画**

本講義では順次以下の論点を扱う。① レナル／デイドロ『両インド史』紹介: 七年戦争後のフランス王国と第一次植民地帝国の動揺 ② アメリカ合衆国独立のコンテクスト: 七年戦争後イギリスの財政難と植民地への課税問題 ③ 『アメリカの革命』——帝国の盛衰の循環か、「出来事」の出現か: 1770 年代のレナル／デイドロの北米イギリス領植民地における紛争に対する態度の変遷 ④ 北米イギリス領植民地の人文地理——自律と分散 ⑤ イギリスの議会制への懐疑——代表制と「公論」 ⑥ 「祖国愛」の「醸成」から「沸騰」へ——イギリス共和主義のアメリカにおける再生? ⑦ 宗教的熱狂と「祖国愛」——誰が「公論」に訴えるか ⑧ 「腐敗」vs.「徳」: 共和主義の修辞学 ⑨ 共和主義とロッキ的自然権論(プライス、ペイン): 蜂起のディスク

ール ⑩ 「諸意志の協調」vs.「一般意志」:連邦共和国 vs.主権国家? ⑪ 歴史的循環の再始? ⑫ 政治革命か、社会革命か——アーレント『革命論』を中心に ⑬ 予備

### 授業の方法

本講義では、レナル／デイドロ『両インド史』の該当箇所を、フランス語原典に沿って読み進めながら、論点を解説していく。その際、授業参加者には、順番に訳読担当が望まれる。

### 成績評価方法

評価は授業への出席・訳読担当・レポートに基づいておこなう。

### 教科書

テキストはコピーを配布する。

### 参考書

授業中に適宜指示する。

### 履修上の注意

予備知識は必要としないが、受講者にはフランス語原典を読む意欲が求められる。

21203202 フランス近世思想研究(2) 王寺賢太 A1/A2 金曜 4 限

### 18 世紀フランスの政治経済学的ユートピア:ケネー『中国の専制』を読む

フランソワ・ケネーの『中国の専制 Despotisme de la Chine』は、一七六七年、雑誌『市民日誌 Éphémérides du citoyen』に発表され、フィジオクラシーの政治経済学的理想像を中国の専制政体に仮託して語った、一種の理論的ユートピア物語である。ケネーが提唱した「フィジオクラシー physiocratie」は、日本では一般に「重農主義」の名で知られる政治経済学的理論だが、その精髓は、単に農業生産に富の唯一の源泉を認め、その再生産のサイクルを解明したところにあるだけでなく、この富の生産の最大化を図る理想的な政治経済秩序を、個々人の自然権の合理的な展開の「必然的」かつ「明証的」な帰結として示すところにあった。「フィジオクラシー」とは「自然の支配」であり、その理想は「自然法の専制」を実現する「自然的・明証的秩序」に求められた。ケネーはこの「自然法の専制」を、一方で、一七～一八世紀のイエズス会宣教師たちの理想化的叙述に基づき、他方で、モンテスキューが『法の精神』で展開した厳しい「中国の専制」批判に真っ向から反論を加えながら、中国の政治経済体制を通じて示して見せた。中国における〈資本主義〉と〈政治的専制〉のパラドキシカルな結婚に理想的政治経済的秩序を見るケネーの議論は、期せずして、現代の我々にとっても奇妙にリアルなものとなっている。

本講義では、この得意な理論的ユートピア物語をフランス語原典で読み解きながら、18 世紀のフランス語で書かれた思想的テキストの読解力を身につけ、フィジオクラシー以下、同時代の政治・経済的議論について知見を深めるとともに、西欧近世における中国イメージの変遷や、ユートピア物語の特質についても議論したい。

### 授業計画

本講義では順次、以下の主題を取り上げる。① ケネー、フィジオクラシー、『市民日誌』——七年戦争後の「経済学者」の登場 ② 18 世紀フランスにおける中国賛美者たち: イエズス会宣教師、ヴォルテール、ケネー ③ 18 世紀フランスにおける中

国批判者たち: モンテスキュー、マブリ、デイドロ ④ 儒教=自然神学の政治経済学的应用: 宗教・法律・習俗の一致 ⑤ 「専制」をめぐる論争: モンテスキューの中国批判とケネーの中国賛美 ⑥ 家父長制賛美の射程: 「経済=オイコス」の政治的拡張 ⑦ 所有権の問題: 自然権の拡大と階層的秩序の二面性 ⑧ 富の生産の最適秩序: 農業の優位と商業の従属化 ⑨ 科挙と官僚制: メリトクラシーの理想と世襲貴族政の批判 ⑩ 中国のユートピア化の射程: 西欧の君主制の政治経済学的批判 ⑪ 中国のユートピア化の限界: 西欧における商人資本主義と自由主義の結婚 ⑫ 18 世紀フランス政治経済論の焦点としての中国 ⑬ 予備

### 授業の方法

講義参加者には訳読を担当してもらい、その訳稿を検討しながら適宜解説を加える。

### 成績評価方法

授業参加・訳読担当・期末レポートを総合的に加味して評価する。

### 教科書

François Quesnay, "Despotisme de la Chine" dans Quesnay, Œuvres économiques complètes et autres textes, Paris, I.N.E.D., 2005 所収。(講義参加者には授業で配布する)

### 参考書

授業中に適宜指示する。

### 履修上の注意

ケネーやフィジオクラシーについて、予備的な知識は一切必要としない。フランス語で原典を読む意欲のある者の参加が望まれる。

## 21200027 Redaction de travaux universitaires (1) SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 水曜 2限

### Rédaction de travaux universitaires

Dans tous les domaines de la recherche, un travail universitaire en français - dissertation, article, mémoire - suit une démarche dont les étapes principales et la logique seront décrites dans le cadre de ce cours, ouvert aux étudiants de tous les départements ayant une bonne maîtrise de base du français.

### 授業計画

Le cours étudiera successivement les différents moments d'un travail universitaire : la formulation du titre, la définition des termes et notions, l'exposé de la problématique, la présentation des sources et du corpus, l'exposé de la démarche, la construction du plan, l'organisation des notes de bas de page et de la bibliographie, etc. Il proposera aussi un entraînement au commentaire de document, à la biographie, et au résumé. Des séances d'exposés sont également prévues.

**授業の方法**

Le cours proposera des documents portant sur plusieurs sujets empruntés aux sciences humaines. Le travail personnel des étudiants consistera à utiliser ces exemples pour construire et rédiger leur propre travail de recherche.

**成績評価方法**

Exercices écrits à remettre régulièrement et exposés.

**教科書**

Textes distribués en cours.

**参考書**

GUIDERE, Mathieu, Méthodologie de la recherche : Guide du jeune chercheur en Lettres, Langues, Sciences humaines et sociales, Ellipses, 2004

**履修上の注意**

Chaque séance portera sur un point particulier de l'écriture universitaire. La maîtrise complète de l'exercice nécessite donc une assiduité constante.

21200028 **Redaction de travaux universitaires (2)** SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 月曜 2 限

**Préparation au DELF B2 et au DALF C1**

Le cours est consacré à la préparation de deux certifications de langue française, le Diplôme d'Etudes en Langue Française (DELF) niveau B2 et le Diplôme Approfondi de Langue Française (DALF) niveau C1.

Le cours est ouvert à tous les étudiants qui souhaitent approfondir leur maîtrise de la langue française, mais particulièrement recommandé à ceux qui envisagent d'étudier en français. Le DELF et le DALF sont en effet exigés pour s'inscrire dans la plupart des universités francophones.

**授業計画**

Le cours abordera successivement les thèmes de société les plus courants pour le DELF B2 et le DALF C1, comme l'éducation, le travail, la famille, les médias, et l'environnement.

**授業の方法**

Le cours permettra aux étudiants de travailler les quatre compétences évaluées par ces deux certifications : compréhension écrite et orale, production écrite et orale. De nombreux exercices pratiques tirés d'annales, ou de manuels existants, seront proposés.

**成績評価方法**

Exercices réguliers.

**教科書**

Textes distribués en cours.



**参考書**

Manuels indiqués lors du premier cours.

**履修上の注意**

La préparation de ces deux certifications exige un entraînement régulier, et une participation active des étudiants.

21203255 **Etude de texte (1)** SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 木曜 3 限

**Ecrire sur soi**

On connaît la définition désormais classique que Philippe Lejeune donnait en 1975 de l'autobiographie : "un récit rétrospectif en prose qu'une personne réelle fait de sa propre existence, lorsqu'elle met l'accent sur sa vie individuelle, en particulier sur l'histoire de sa personnalité." Sans se limiter à l'autobiographie proprement dite, et en élargissant le propos à des oeuvres appartenant aux mémoires ou à l'autofiction, le cours se propose d'examiner les enjeux de l'écriture de soi dans un ensemble de textes variés, allant de Montaigne à Emile Louis.

**授業計画**

Chaque séance sera consacrée à l'étude de l'écriture autobiographique / de l'autofiction chez un écrivain particulier, à partir d'un texte choisi. La progression se fera selon l'ordre chronologique des auteurs.

**授業の方法**

Le cours constitue un bon entraînement au commentaire de texte. Les étudiants seront chargés à tour de rôle de l'explication d'un texte choisi, sous forme d'exposé oral. Chaque exposé fera l'objet d'une discussion de groupe, et d'une reprise par l'enseignant.

**成績評価方法**

Un exposé et l'animation d'une discussion au cours du semestre.

**教科書**

Textes distribués en cours.

**参考書**

Références indiquées en cours.

**履修上の注意**

Le cours nécessite une participation active des étudiants.



---

**21203256 Etude de texte (2) SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 月曜 3 限**

---

**Méthodologie du commentaire de texte**

Le cours sera consacré à l'analyse de textes courts, un par séance, appartenant à des genres variés du XVI<sup>e</sup> siècle à nos jours. Son but est de sensibiliser les étudiants à la diversité des formes littéraires, et de les familiariser avec les méthodes d'analyse textuelle.

**授業計画**

Le cours abordera tour à tour le roman, la poésie, le théâtre et l'argumentation. Il permettra aux étudiants de se familiariser avec des méthodes d'analyse efficaces pour expliquer un incipit, une description, un portrait, un dialogue, un dénouement, un sonnet, un poème en prose, etc. Il permettra aussi de lire de grands textes de la littérature française, qui font partie de la culture de base des humanités.

**授業の方法**

Le cours accordera une large part aux rappels méthodologiques et à la prise de parole organisée des étudiants. Les étudiants seront chargés à tour de rôle de l'explication d'un texte choisi, sous forme d'exposé oral. Chaque exposé fera l'objet d'une discussion de groupe, et d'une reprise par l'enseignant.

**成績評価方法**

Exposés réguliers.

**教科書**

Textes distribués en cours.

**参考書**

Textes de référence indiqués en cours.

**履修上の注意**

Le cours a une visée à la fois culturelle et méthodologique. Pour être pleinement profitable, l'entraînement à la lecture et au commentaire de texte doit donc être régulier.

---

**21203257 Dissertation française (1) SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 金曜 3 限**

---

**Méthodologie de la recherche en littérature française**

Le cours prolonge l'apprentissage de la dissertation. Mais il envisage plus largement les codes de l'écriture universitaire, dont la connaissance est indispensable pour rédiger un mémoire, un article, ou encore une thèse de doctorat en français.

Son objectif est avant tout pratique : il vise à donner aux étudiants la maîtrise des principaux outils nécessaires pour présenter leur recherche en français.

#### 授業計画

Le cours abordera successivement les difficultés majeures de la recherche en littérature : le choix du titre, la définition des notions-clés, la problématique, la présentation des sources, du corpus et de la démarche critique, le sommaire, la rédaction des notes de bas de page, la bibliographie, et le résumé.

#### 授業の方法

Le cours proposera des documents portant sur plusieurs sujets de littérature. Le travail personnel des étudiants consistera à utiliser ces exemples pour construire et rédiger leur propre recherche.

#### 成績評価方法

Exercices écrits à remettre régulièrement.

#### 教科書

Textes distribués en cours.

#### 参考書

Références indiquées en cours.

#### 履修上の注意

Chaque séance portera sur un point particulier de l'écriture universitaire. La maîtrise complète de l'exercice nécessite donc une assiduité constante.

**21203258    Dissertation française(2)    SIMON-OIKAWA Marianne S1/S2 水曜 3 限**

### Dissertation française

Le cours propose une formation complète aux techniques de la dissertation. Il est particulièrement recommandé aux étudiants qui envisagent de suivre des études dans une université française ou francophone.

#### 授業計画

Le cours abordera successivement les genres suivants : roman, poésie, théâtre.

#### 授業の方法

Le cours fera alterner exercices de méthode (analyse du sujet, recherche des arguments et des exemples, composition du plan, etc) et des exercices de contenu (lecture et discussion de textes théoriques en rapport avec les sujets traités).

#### 成績評価方法

Une dissertation à remettre chaque mois.

**教科書**

Textes distribués en cours.

**参考書**

BAUDELLE, Yves et al., Dissertations littéraires générales, Paris, Armand Colin, coll. Cursus, 2007, 237 p. TOURSEL, Nadine, et VASSEVIÈRE Jacques, Littérature : textes théoriques et critiques, Paris, Armand Colin, coll. Cursus, 2008 (2e édition), 368 p.

**履修上の注意**

Le cours, fondé sur la pratique, demande une assiduité constante et un investissement important.

21203204 フランス語統辞論研究(1) 杉山利恵子 S1/S2 木曜 3 限

**フランス語統辞論研究**

現代フランス語の統辞論の分野におけるいろいろな問題について、入門書から専門書、論文などの抜粋を読み、言語学の用語や概念、フランス語の歴史的変遷などを確認しながら、その問題にさまざまな角度からアプローチする。今年度は「フランス語統辞論研究(1)」「フランス語統辞論研究(2)」ともに「自動詞と他動詞」を中心テーマとし、関連する事項についても考察する。

**授業計画**

初回の授業で説明する。

**授業の方法**

講義であるが、訳読や課題の分析など、授業への積極的な参加が求められる。

**成績評価方法**

授業参加(訳読・意見の発表など)と試験(持ち込み可)。

**教科書**

授業で使用するテキストは、プリントで配布する。

**参考書**

初回の授業で参考文献一覧を配布し説明する。その他、必要に応じて授業中に指示する。

**履修上の注意**

専門外であっても、フランス語の中級文法を学ぶレベルであることが望ましい。

---

**21203205 フランス語統辞論研究(2) 杉山利恵子 A1/A2 木曜 3 限**

---

**フランス語統辞論研究**

現代フランス語の統辞論の分野におけるいろいろな問題について、入門書から専門書、論文などの抜粋を読み、言語学の用語や概念、フランス語の歴史的変遷などを確認しながら、その問題にさまざまな角度からアプローチする。今年度は「フランス語統辞法研究(1)」「フランス語統辞法研究(2)」ともに「自動詞と他動詞」を中心テーマとし、関連する事項についても考察する。

**授業計画**

初回の授業で説明する。

**授業の方法**

講義であるが、訳読や課題の分析など、授業への積極的な参加が求められる。

**成績評価方法**

授業参加(訳読・意見の発表など)と試験(持ち込み可)。

**教科書**

授業で使用するテキストは、プリントで配布する。

**参考書**

初回の授業で参考文献一覧を配布し説明する。その他、必要に応じて授業中に指示する。

**履修上の注意**

専門外であっても、フランス語の中級文法を学ぶレベルであることが望ましい。

---

**21203203 フランス中世文学研究 横山安由美 S1/S2 金曜 4 限**

---

**古フランス語入門——最古のフランス文学作品『聖アレクシス伝』を読む——**

古フランス語文法の基礎を理解し、中世の文献を講読する。講読では、11 世紀頃に成立したフランス文学最古の作品のひとつ『聖アレクシス伝』を読む。ローマの富裕な家庭に生まれたアレクシスは結婚式の夜に突然出奔し、ひたすら神に祈りを捧げつつ、貧困のうちに生を終える。偶然実家の家の軒先で息絶えた浮浪者が、実はアレクシスであったことを知って人々は愕然とする。殉教譚でも奇跡譚でもない本作がもつ不思議な魅力について考えてゆきたい。なおこの作品は早くも 1592 年にイエズス会士によって日本に伝わっている(『サントスの御作業』)。

また中世作品を読むにあたっては筆写の現場の理解が不可欠である。簡単に写本学の導入を行い、『聖アレクシス伝』の写本の読解練習を行う予定である。

**授業計画**

基本的に以下の順番で進めるが、進度や受講者の関心によって若干変更することがありうる。1. 中世フランス文学概説 2. フランス語史概説(ラテン語からフランス語へ) 3. 名詞(格変化など) 4. 冠詞、形容詞、代名詞など 5. 動詞と統辞上の諸問題 6. 中世の古文書と文献学 7. 作品講読 8. 作品講読 9. 作品講読 10. 作品講読 11. 作品講読 12. 作品講読 13. 作品講読 14. まとめ

**授業の方法**

前半はプリントに沿って基本的な文法事項を説明し、簡単な例文を読んでいく。後半の作品講読では『聖アレクシス伝』を訳読する。適宜写本のコピーも参照する。

**成績評価方法**

平常点 70%(出席、課題、積極的参加度)、期末レポート 30%

**教科書**

プリント配布

**参考書**

Guy Raynaud de Lage, "Introduction à l'Ancien Français", SEDES, 1975 (ギ=レノ・ド・ラージュ『古フランス語入門』朝日出版社、1981) Gaston Paris(ed.), "La Vie de Saint Alexis", Champion, 1980 原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』世界思想社、2007 高山博・池上俊一『西洋中世学入門』東大出版会、2005 \*その他授業中に適宜指示する。

**履修上の注意**

中世に興味があり、初歩的なフランス語力があれば、誰でも受講が可能です。古い世界を楽しんでみましょう。ただし講読については毎回予習が必要です。ラテン語の知識があると役に立ちます。

21203259      **フランス文学研究の諸問題(1)**      S1/S2 木曜 5 限

**フランス文学研究の諸問題(1)**

大学院学生の研究発表をもとに、学生相互、あるいは教員との質疑応答を展開させ、フランス文学研究上の諸問題を考察する。修士論文の成果、または博士論文のアイデアの一部を、一定時間内の研究発表にまとめる作業を通じて、研究上の新たな進展の契機としていただきたい。あわせて、研究発表の作法と効果的な発表技術の習得にも努めていただきたい。

**授業計画**

担当者による発表および討議。

**授業の方法**

大学院生のイニシアティヴによって運営する。

**成績評価方法**

ゼミでの研究発表。

**教科書**

特になし。

**参考書**

特になし。

**履修上の注意**

特になし。

---

**21203260 フランス文学研究の諸問題(2) A1/A2 木曜 5 限**

---

**フランス文学研究の諸問題(2)**

大学院学生の研究発表をもとに、学生相互、あるいは教員との質疑応答を展開させ、フランス文学研究上の諸問題を考察する。修士論文の成果、または博士論文のアイデアの一部を、一定時間内の研究発表にまとめる作業を通じて、研究上の新たな進展の契機としていただきたい。あわせて、研究発表の作法と効果的な発表技術の習得にも努めていただきたい。

**授業計画**

担当者による発表および討議。

**授業の方法**

大学院生のイニシアティブによって運営する。

**成績評価方法**

ゼミでの研究発表。

**教科書**

特になし。

**参考書**

特になし。

**履修上の注意**

特になし。

---

21203298 修士論文指導 S1/S2/A1/A2 月曜 1 限

---

**修士論文指導**

それぞれの指導教員による個別的な論文指導

**授業計画**

指導教員と相談のうえ、決定する

**授業の方法**

指導教員との面談による

**成績評価方法**

平常点

**教科書**

特になし

**参考書**

指導教員と相談のうえ、決定する

**履修上の注意**

特になし

---

21203299 博士論文指導 S1/S2/A1/A2 月曜 1 限

---

**博士論文指導**

それぞれの指導教員による個別的な論文指導

**授業計画**

指導教員と相談のうえ、決定する

**授業の方法**

指導教員との面談による

**成績評価方法**

平常点

**教科書**

特になし

**参考書**

指導教員と相談のうえ、決定する

**履修上の注意**

特になし